

あなぶきホームの家

設計・施工

あなぶきホーム株式会社

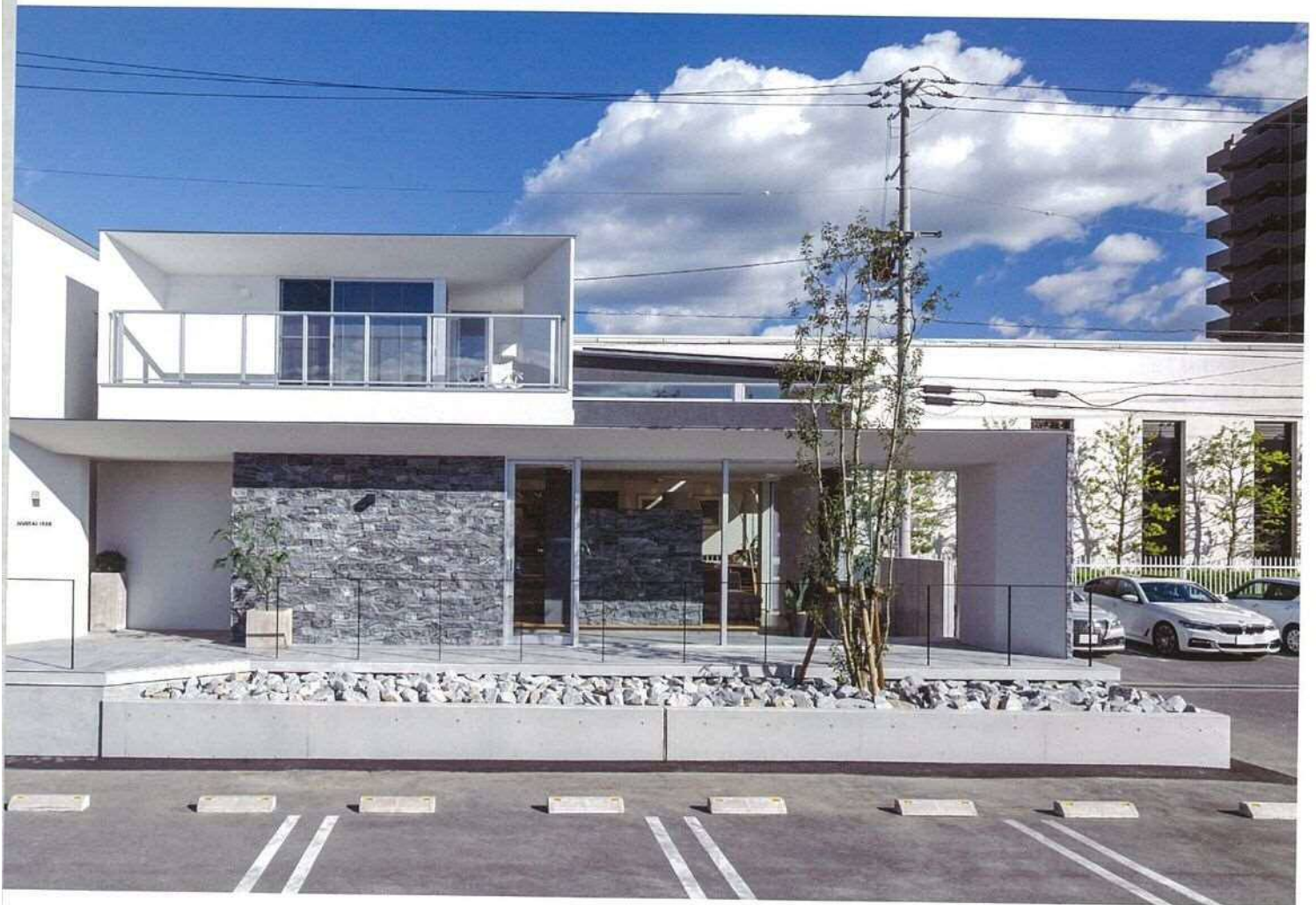
photo: studio J Shingo Nitta

text: Jun Hashimoto

さまざまな場の 集合としてのモデルハウス

30代の共働き世代をメインターゲットに想定し、
そこで必要とされる生活のさまざまな機能やシーンを視覚化し、
統合したモデルハウス「あなぶきホームの家」がつけられた。

エントランスから玄関土間を見通す。幅は1,515mm。



西側から見る全景。

「あなぶきホームの家」は、あなぶきホーム株式会社が、香川県高松市に建設したモデルハウスである。今回は、代表取締役の逢坂佳秀さん、執行役員岡山営業所所長兼本社設計部部長の織野浩司さん、設計部設計デザイン室主任の井藁実香さんにお話をうかがった。

穴吹興産とあなぶきホーム

あなぶきホームは穴吹興産グループの一員で、2005年に興産の「あなぶきホーム事業部」が独立して誕生した会社である。穴吹興産グループは、その基本方針を地域密着としており、不動産や施設管理運営、流通系やシニア関連など幅広い分野でこの地域の生活を支えている。あなぶきホームもその方針の上で顧客のニーズに寄り添い、住宅の設計施工だけでなくファイナンシャルプランニングからアフターサービスまで手厚くフォローすることをビジネスの軸に据えている。香川県高松市に本社を構え、社員は現在60名(2019年1月現在)。本社と岡山営業所を拠点に事業を展開している。

このモデルハウスは、高松市木太町でグループ会社のあなぶきエンタープライズが運営する高松国際ホテルの駐車場の一角を借りて建てられた。住宅展示場ではなくこの場所に建設したのは、交通量の多い道路に面していること、ホテルのレストランや結婚式場に訪れる人の目に触れやすいこと、つまり目的外客にも広く

関心を持ってもらいたいという目論見からである。

ちりばめられた希望

外観は白を基調としたボックス形状で、エッジをシャープに仕上げた構えが目を引く。

エントランスを入ると西側全面に1,515mm幅の玄関土間が続く。左手はリビングで、中央に外部からの視線を制御する壁を設けているが、その両側の好きなところから上がることができる。縁側のような間口の広い玄関で、来客が多いときは便利であろう。リビングの天井高は2,200mmに抑え、奥のダイニングの天井高を3,800mmと開放感のある空間にしている。

キッチンとリビングの間に階段を設け、ダイニングを南側にややシフトさせて配置している。これは階段を上り下りする人の動きを感じたり、段板に腰を掛けて家族が話をするような状況を想定してとのこと。

ダイニングの奥は畳コーナーである。小さくても畳のスペースを欲する要望は多いという。休日にゴロツいたり、小さな子どもを遊ばせておいたり、取り込んだ洗濯物をいっとき置いておいたり、さまざまな使い方を受け止めてくれるのが畳であり、今日でも根強い人気がある。



リビングからダイニング、キッチン、その奥の畳コーナーを見通す。開口部に沿ってベンチや勉強机などの造作を施している。

ダイニングより、フリースペース、ホールを見上げる。

裏動線も充実している。玄関脇にシューズクロークを設け、その中に手洗いを設置している。遊んで帰ってきた子どもがそこで自分で手を洗ってから上がれるように考えている。その奥にはお出かけ着も掛けておける広めのコートクロークと、洗濯・乾燥からアイロンがけ、収納スペースまでをコンパクトにまとめたユーティリティと、洗面脱衣・浴室を配置している。さらにその奥はキッチンとパントリーへと繋がっている。浴室には大きな開口を設け、植栽された前庭に向けて開いている。

階段の踊り場からは吹抜けに向かって開かれたフリースペースへアクセスできる。もうひとつのリビングとも言えよう。その奥には書斎、その脇には小屋裏収納を用意した。

主寝室には、小さな手洗いを備えた広い化粧台と、その脇にTVを設置している。クローゼットはヘッドボードの裏側にある。

在来工法と比較したい

いちばん大きな空間はダイニングの吹抜けで、6,370mm×5,915mm角である。X12-Y6に平角柱をX軸方向に入れている。これはダイニングから畳コーナーにかけて南側壁面上部にハイサイドライトを開けたからで、水平耐力を平角柱で担保している。



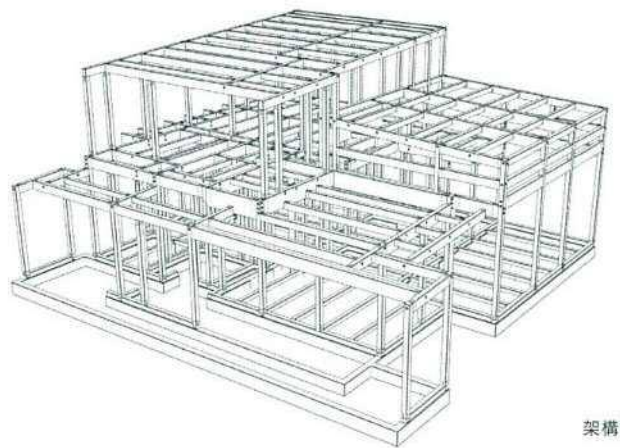


ダイニングからリビング、通り土間方向を見る。リビングの天井高は2,200mm、ダイニングの天井高は3,800mm。
右端に見えるのはキッチン。ダイニングテーブルの背面に階段を配置して、段板に腰掛けて会話をすることも可能にした。





1. 階段踊り場からフリースペースを見る。右奥が書斎。2. 書斎を見る。右は天井高を低く抑えた小屋裏収納。3. 主寝室を見る。化粧台の左手に手洗い、右手に TV を配置している。4. シューズクロークを見る。右奥に手洗いを設けた。奥はユーティリティ、パントリーまで裏導線が繋がる。5. ユーティリティを見る。6. パントリーを見る。



架構図



この空間にはSE構法でなければ実現が難しい規模の広がりがある。逢坂さんたちは、この空間を在来工法でつくった場合、SE構法では必要とされない壁や柱や火打ちなどがどの程度出てきてしまうかの比較検証をしたいと考えているようだ。設計条件をどのように設定するかがカギになるが、いくつかの条件で設定してビジュアライズできたら、来訪者にSE構法を評価してもらう上で有効なツールになるに違いない。

場の集合から見えるもの

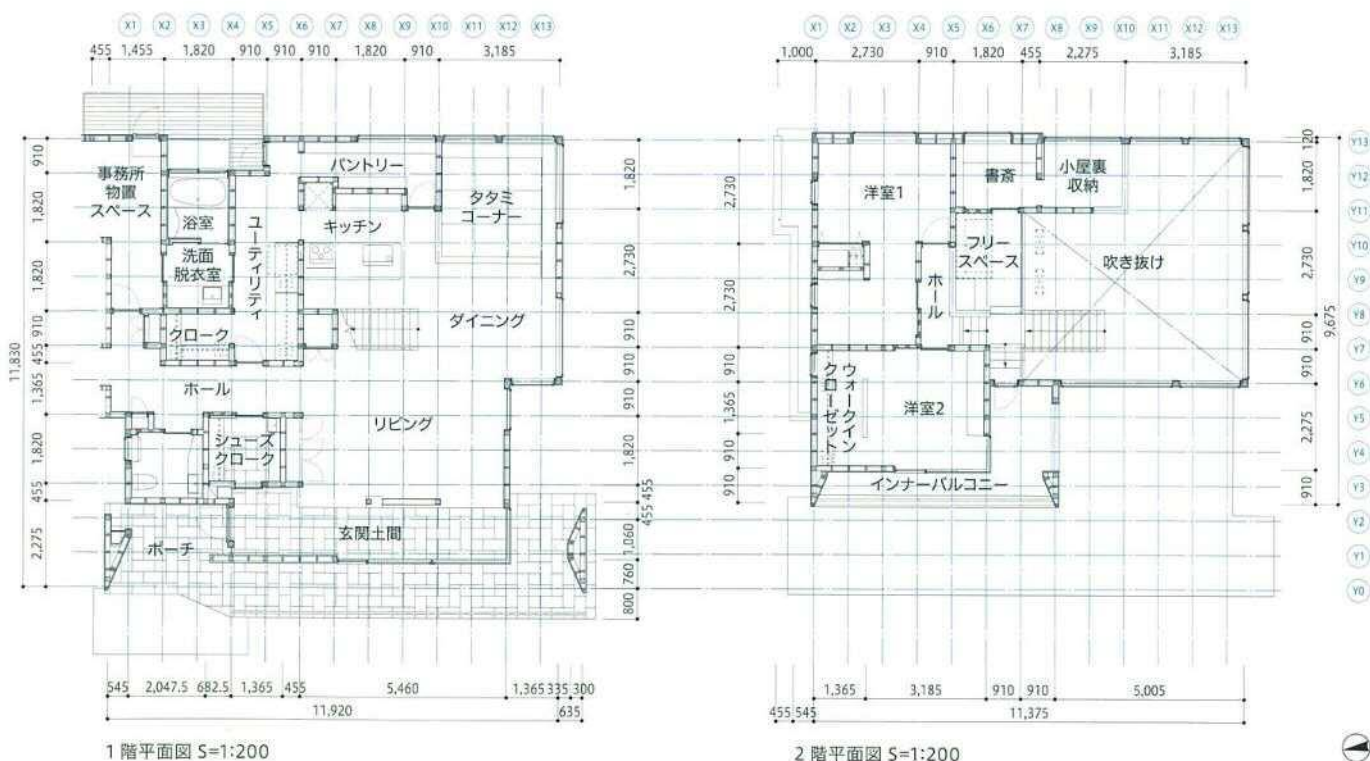
今回のモデルハウスは30代の共働き世代がターゲットである。彼ら彼女らは家に何を望むのか。それを今回は女性を中心とした設計チームが検討を重ねてここに盛り込んだ。したがって一般的な住宅と比べれば、さまざまな要素が盛り込まれすぎていて、いささが過剰な印象を与える。しかし来訪者は、ここへ来て自分たちに必要なコンテンツを発見し、それらの組み合わせで自分の家を考えることができる。モデルハウスはイメージを伝えるためのメディアだが、これは、全体でひとつのイメージを伝えるのではなく、部分部分

の場のイメージが発信されるようにつくられている。

30代の共働き世代には、専業主婦が家事を取り仕切る家とは異なった生活のスタイルがある。そしてそれぞれ働き方が異なるから、家に求めるものも多様化する。バックヤードのコンテンツを充実させて、家事を効率よくこなすためのさまざまなアイデアを提案し、家の中で各人が寛げる場所を随所にちりばめた。家族団らんだけではなく、それぞれの時間も大切にしたいという感覚が盛り込まれた。階段を間に挟んだLDKは、それぞれの距離感も提案していた。書斎だけでなく、畳コーナーやフリースペースなどたくさんの居場所が提案された。働き方が変化するという事は住宅に求められるものも変化してくるということである。

家族であっても、ひとりひとりの個人であることが大切にされる時代である。独立しつつ繋がっていく個人の集合の形式をどのように建物で実現していくか。そのためのアイデア集としてつくられたのが「あなぶきホームの家」であった。

言い換えれば、モデルハウスの中に私たちは現代人のライフスタイルのさまざまな断片を見ることができると言うことでもある。



建物名称:あなぶきホームの家
モデルハウス
所在地:高松市木太町字洲端
高松国際ホテル内

設計
設計:あなぶきホームプランニング
一級建築設計事務所
担当:織野浩司、井藤実香

構造:株式会社エヌ・シー・エヌ
施工
施工:あなぶきホーム株式会社

敷地条件
近隣商業地域
道路幅員:北側道路30m

構造・構法
主体構造・構法:SE構法(木造軸組構法)
基礎:べた基礎

規模
階数:木造2階
軒高:6.006m
最高高さ:6.556m
敷地面積:360.48㎡
建築面積:142.53㎡(建蔽率80%)
延床面積:179.61㎡(容積率300%)
1階:121.00㎡
2階:58.61㎡

工程
設計期間:約2017年11月~2018年2月
施工期間:約2018年4月~2018年10月

外部仕上げ
屋根:ガルバリウム鋼板葺き
外壁:ジョリパット、一部タイル張り
開口部:複合サッシ

内部仕上げ
居間
床:オーク無垢
壁・天井:けいそう塗り
キッチン
床:オーク無垢
壁:タイル貼り
天井:けいそう塗り
畳コーナー
床:健やか畳
壁・天井:けいそう塗り

書斎・小屋裏収納
床:オーク無垢
壁・天井:けいそう塗り
打合せ・キッズルーム
床:オーク無垢
壁壁・天井:クロス貼り
寝室
床:カーペット
壁壁・天井:クロス貼り

設備システム
換気:ダクトレス第一種熱交換
換気システム
太陽光・蓄電池・HEMS

設計・施工

あなぶきホーム株式会社
〒760-0078
香川県高松市今里町10番地1
TEL:087-815-1383
<https://www.anabukihome.jp>